

2020年6月8日

科目名	民法(物権)	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科1～2年	開講時期	通年
教員名	吉井英二	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目は動画配信による遠隔授業形式にて実施する。 物権法に関する基本的な原理や仕組みと現実に果たしている機能を理解し、その知識を運用して具体的な問題に取り組み、妥当な解決策を導き出す能力を養う。 出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>
--

2. 授業計画 (1時限 45分 × 60回 = 2700分 4単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	民法 債権(1) 債権総論、不特定物の特定	41	民法11 物権(11) 抵当権と物上代位
2	民法 債権(1) 債権総論、不特定物の特定	42	演習
3	民法 債権(1) 債権総論、不特定物の特定	43	民法12 物権(12) 法定地上権
4	民法2 物権(2) 不動産物権変動(2)、相続と登記	44	民法12 物権(12) 法定地上権
5	民法2 物権(2) 不動産物権変動(2)、相続と登記	45	民法12 物権(12) 法定地上権
6	民法2 物権(2) 不動産物権変動(2)、相続と登記	46	民法13 物権(13) 抵当不動産の第三取得者、抵当権侵害
7	演習	47	民法13 物権(13) 抵当不動産の第三取得者、抵当権侵害
8	民法3 物権(3) 動産物権変動、即時取得	48	民法13 物権(13) 抵当不動産の第三取得者、抵当権侵害
9	民法3 物権(3) 動産物権変動、即時取得	49	演習
10	民法3 物権(3) 動産物権変動、即時取得	50	民法14 物権(14) 抵当権の変更、共同抵当
11	演習	51	民法14 物権(14) 抵当権の変更、共同抵当
12	民法4 物権(4) 明認方法、占有権	52	民法14 物権(14) 抵当権の変更、共同抵当
13	民法4 物権(4) 明認方法、占有権	53	演習
14	民法4 物権(4) 明認方法、占有権	54	民法15 物権(15) 譲渡担保
15	演習	55	民法15 物権(15) 譲渡担保
16	民法5 物権(5) 占有権の取得、占有訴権	56	民法15 物権(15) 譲渡担保
17	民法5 物権(5) 占有権の取得、占有訴権	57	民法16 物権(16) その他の非典型担保
18	民法5 物権(5) 占有権の取得、占有訴権	58	民法16 物権(16) その他の非典型担保
19	民法6 物権(6) 所有権、相隣関係、共有	59	民法16 物権(16) その他の非典型担保
20	民法6 物権(6) 所有権、相隣関係、共有	60	総まとめ
21	民法6 物権(6) 所有権、相隣関係、共有	61	
22	演習	62	
23	民法7 物権(7) 共有、地上権、永小作権、地役権	63	
24	民法7 物権(7) 共有、地上権、永小作権、地役権	64	
25	民法7 物権(7) 共有、地上権、永小作権、地役権	65	
26	演習	66	
27	民法8 物権(8) 担保物権、留置権・先取特権	67	
28	民法8 物権(8) 担保物権、留置権・先取特権	68	
29	民法8 物権(8) 担保物権、留置権・先取特権	69	
30	演習	70	
31	民法9 物権(9) 質権	71	
32	民法9 物権(9) 質権	72	
33	民法9 物権(9) 質権	73	
34	演習	74	
35	民法10 物権(10) 抵当権	75	
36	民法10 物権(10) 抵当権	76	
37	民法10 物権(10) 抵当権	77	
38	演習	78	
39	民法11 物権(11) 抵当権と物上代位	79	
40	民法11 物権(11) 抵当権と物上代位	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 ・ 毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。 ・ 諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	民法講義録 改訂版 2019年	出版社	日本評論社
著者名	新井誠 岡伸浩		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	民法(債権総論)	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科1～2年	開講時期	通年
教員名	吉井英二	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目は動画配信による遠隔授業形式にて実施する。</p> <p>①債権法の全体構造を理解する。</p> <p>②債権一般に共通するルールとして債権総則既定の基礎知識を習得する。</p> <p>③特に、債権者の債権管理・回収という側面から、周辺領域の基礎知識にも触れつつ、その相関関係を理解する。</p> <p>④改正債権法の主たる内容を理解し、今後の債権法がどのように変容を遂げていくのか見通せるようになる。</p> <p>出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>
--

2. 授業計画 (1時限 45分 × 60回 = 2700分 4単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	民法1 債権(1) 債権総論、不特定物の特定	41	民法14 債権(14) 債権譲渡にかかわる諸問題、債権譲渡類似の法律関係
2	民法1 債権(1) 債権総論、不特定物の特定	42	民法14 債権(14) 債権譲渡にかかわる諸問題、債権譲渡類似の法律関係
3	民法1 債権(1) 債権総論、不特定物の特定	43	民法15 債権(15) 弁済、債権の準占有者
4	民法2 債権(2) 債権の効力、債務不履行	44	民法15 債権(15) 弁済、債権の準占有者
5	民法2 債権(2) 債権の効力、債務不履行	45	民法15 債権(15) 弁済、債権の準占有者
6	民法2 債権(2) 債権の効力、債務不履行	46	民法16 債権(16) 弁済による代位、弁済提供の要件
7	民法3 債権(3) 債務不履行、損害賠償	47	民法16 債権(16) 弁済による代位、弁済提供の要件
8	民法3 債権(3) 債務不履行、損害賠償	48	民法16 債権(16) 弁済による代位、弁済提供の要件
9	民法3 債権(3) 債務不履行、損害賠償	49	民法17 債権(17) 弁済提供の諸問題、代物弁済、相殺の要件
10	民法4 債権(4) 損害賠償、受領遅滞	50	民法17 債権(17) 弁済提供の諸問題、代物弁済、相殺の要件
11	民法4 債権(4) 損害賠償、受領遅滞	51	民法17 債権(17) 弁済提供の諸問題、代物弁済、相殺の要件
12	民法4 債権(4) 損害賠償、受領遅滞	52	民法18 債権(18) 相殺に関する諸問題
13	民法5 債権(5) 債権者代位権	53	民法18 債権(18) 相殺に関する諸問題
14	民法5 債権(5) 債権者代位権	54	民法18 債権(18) 相殺に関する諸問題
15	民法5 債権(5) 債権者代位権	55	総まとめ
16	民法6 債権(6) 詐害行為取消権の要件	56	総まとめ
17	民法6 債権(6) 詐害行為取消権の要件	57	総まとめ
18	民法6 債権(6) 詐害行為取消権の要件	58	総まとめ
19	民法7 債権(7) 詐害行為取消権の効果	59	総まとめ
20	民法7 債権(7) 詐害行為取消権の効果	60	総まとめ
21	民法7 債権(7) 詐害行為取消権の効果	61	
22	民法8 債権(8) 可分・不可分債権、連帯債務	62	
23	民法8 債権(8) 可分・不可分債権、連帯債務	63	
24	民法8 債権(8) 可分・不可分債権、連帯債務	64	
25	民法9 債権(9) 連帯債務、不真正連帯債務	65	
26	民法9 債権(9) 連帯債務、不真正連帯債務	66	
27	民法9 債権(9) 連帯債務、不真正連帯債務	67	
28	民法10 債権(10) 保証債務、保証人の抗弁権	68	
29	民法10 債権(10) 保証債務、保証人の抗弁権	69	
30	民法10 債権(10) 保証債務、保証人の抗弁権	70	
31	民法11 債権(11) 保証人の求償権、その他の保証	71	
32	民法11 債権(11) 保証人の求償権、その他の保証	72	
33	民法11 債権(11) 保証人の求償権、その他の保証	73	
34	民法12 債権(12) 債権譲渡総論、対抗要件	74	
35	民法12 債権(12) 債権譲渡総論、対抗要件	75	
36	民法12 債権(12) 債権譲渡総論、対抗要件	76	
37	民法13 債権(13) 対抗要件・抗弁の承継と切断	77	
38	民法13 債権(13) 対抗要件・抗弁の承継と切断	78	
39	民法13 債権(13) 対抗要件・抗弁の承継と切断	79	
40	民法14 債権(14) 債権譲渡にかかわる諸問題、債権譲渡類似の法律関係	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 ・ 毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。 ・ 諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	民法講義録 改訂版 2019年	出版社	日本評論社
著者名	新井誠 岡伸浩		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	民法(親族・相続)	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科2年	開講時期	通年
教員名	津野洋子	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

本科目は動画配信による遠隔授業形式にて実施する。
 親族法と相続法それぞれの制度がどのように構成されているのか、それらの制度をめぐってどのような問題が起こっているのかを把握することが第一の目的である。この分野は、明治民法施行後、立法による抜本的な改正が行われてこなかった部分も多いだけに、世界各国や日本国内の生活実態に合わない部分も多い。そのような問題には、条文を読んだだけでは対応できない。そこで、社会の実情に法制度のほうをどのように合わせていくのかという視点を獲得することも目的とされる。
 出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。

2. 授業計画

(1時限

45分

×

60回

=

2700分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	民法1 親族・相続(1) 親族総論、婚姻要件	41	演習
2	民法1 親族・相続(1) 親族総論、婚姻要件	42	演習
3	民法1 親族・相続(1) 親族総論、婚姻要件	43	民法8 親族・相続(8) 相続の承認・放棄
4	民法1 親族・相続(1) 親族総論、婚姻要件	44	民法8 親族・相続(8) 相続の承認・放棄
5	演習	45	民法8 親族・相続(8) 相続の承認・放棄
6	演習	46	民法8 親族・相続(8) 相続の承認・放棄
7	民法2 親族・相続(2) 婚姻の効果、婚姻の解消、その他内縁等	47	演習
8	民法2 親族・相続(2) 婚姻の効果、婚姻の解消、その他内縁等	48	演習
9	民法2 親族・相続(2) 婚姻の効果、婚姻の解消、その他内縁等	49	民法9 親族・相続(9) 遺言総論、遺言の方式
10	民法2 親族・相続(2) 婚姻の効果、婚姻の解消、その他内縁等	50	民法9 親族・相続(9) 遺言総論、遺言の方式
11	演習	51	民法9 親族・相続(9) 遺言総論、遺言の方式
12	演習	52	民法9 親族・相続(9) 遺言総論、遺言の方式
13	民法3 親族・相続(3) 総論・実子・養子	53	演習
14	民法3 親族・相続(3) 総論・実子・養子	54	演習
15	民法3 親族・相続(3) 総論・実子・養子	55	民法10 親族・相続(10) 遺言の効力、執行、撤回、遺留分
16	民法3 親族・相続(3) 総論・実子・養子	56	民法10 親族・相続(10) 遺言の効力、執行、撤回、遺留分
17	演習	57	民法10 親族・相続(10) 遺言の効力、執行、撤回、遺留分
18	演習	58	民法10 親族・相続(10) 遺言の効力、執行、撤回、遺留分
19	民法4 親族・相続(4) 特別養子、親権・後見	59	演習
20	民法4 親族・相続(4) 特別養子、親権・後見	60	演習
21	民法4 親族・相続(4) 特別養子、親権・後見	61	
22	民法4 親族・相続(4) 特別養子、親権・後見	62	
23	演習	63	
24	演習	64	
25	民法5 親族・相続(5) 後見・保佐・補助・扶養	65	
26	民法5 親族・相続(5) 後見・保佐・補助・扶養	66	
27	民法5 親族・相続(5) 後見・保佐・補助・扶養	67	
28	民法5 親族・相続(5) 後見・保佐・補助・扶養	68	
29	演習	69	
30	演習	70	
31	民法6 親族・相続(6) 相続総論、欠格事由、廃除	71	
32	民法6 親族・相続(6) 相続総論、欠格事由、廃除	72	
33	民法6 親族・相続(6) 相続総論、欠格事由、廃除	73	
34	民法6 親族・相続(6) 相続総論、欠格事由、廃除	74	
35	演習	75	
36	演習	76	
37	民法7 親族・相続(7) 相続分・遺産分割	77	
38	民法7 親族・相続(7) 相続分・遺産分割	78	
39	民法7 親族・相続(7) 相続分・遺産分割	79	
40	民法7 親族・相続(7) 相続分・遺産分割	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> 毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。 諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	民法講義録 改訂版 2019年	出版社	日本評論社
著者名	新井誠 岡伸浩		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	刑法各論	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科2年・法律公務員学科2年	開講時期	後期
教員名	相田裕亮	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目は動画配信による遠隔授業形式にて実施する。 どのような行為が犯罪となり、いかなる刑罰が科されるのかについて、各条文の内容について学修する。各犯罪規程のねらい、成立要件、特徴、適用範囲などについて、理解が十分に及ぶことを目標とする。あわせて、体系的思考を身につけ、理論的につじつまの合う考え方をしめすことができるようになることを目標とする。 出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>

2. 授業計画

(1時限

45分

×

60回

=

2700分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	刑法各論(1) 殺人、傷害	41	刑法各論(21) 文書偽造(2)、文書偽造に関する諸問題(1)
2	刑法各論(1) 殺人、傷害	42	刑法各論(21) 文書偽造(2)、文書偽造に関する諸問題(1)
3	刑法各論(2) 傷害(2)、過失傷害、墮胎	43	刑法各論(22) 文書偽造に関する諸問題(2)、有価証券偽造
4	刑法各論(2) 傷害(2)、過失傷害、墮胎	44	刑法各論(22) 文書偽造に関する諸問題(2)、有価証券偽造
5	刑法各論(3) 遺棄・逮捕監禁	45	刑法各論(23) 公然わいせつ、重婚、賭博、富くじ、死体遺棄罪
6	刑法各論(3) 遺棄・逮捕監禁	46	刑法各論(23) 公然わいせつ、重婚、賭博、富くじ、死体遺棄罪
7	刑法各論(4) 脅迫・略取誘拐	47	刑法各論(24) 内乱、外患、公務執行妨害罪
8	刑法各論(4) 脅迫・略取誘拐	48	刑法各論(24) 内乱、外患、公務執行妨害罪
9	刑法各論(5) 強制わいせつ、業務妨害、信用毀損、秘密漏示罪	49	刑法各論(25) 逃走、犯人蔵匿・隠避罪
10	刑法各論(5) 強制わいせつ、業務妨害、信用毀損、秘密漏示罪	50	刑法各論(25) 逃走、犯人蔵匿・隠避罪
11	刑法各論(6) 住居侵入・名誉棄損罪	51	刑法各論(26) 証拠隠滅、親族間特例
12	刑法各論(6) 住居侵入・名誉棄損罪	52	刑法各論(26) 証拠隠滅、親族間特例
13	刑法各論(7) 財産罪、窃盗罪	53	刑法各論(27) 偽証罪、虚偽告訴、職権乱用、単純収賄
14	刑法各論(7) 財産罪、窃盗罪	54	刑法各論(27) 偽証罪、虚偽告訴、職権乱用、単純収賄
15	刑法各論(8) 窃盗、不動産侵奪、親族間特例	55	刑法各論(28) 恐喝と贈収賄、その他の賄賂罪の要件
16	刑法各論(8) 窃盗、不動産侵奪、親族間特例	56	刑法各論(28) 恐喝と贈収賄、その他の賄賂罪の要件
17	刑法各論(9) 強盗の構成要件	57	刑法各論(29) 総括1
18	刑法各論(9) 強盗の構成要件	58	刑法各論(29) 総括1
19	刑法各論(10) 強盗利得罪、事後強盗罪	59	刑法各論(30) 総括2
20	刑法各論(10) 強盗利得罪、事後強盗罪	60	刑法各論(30) 総括2
21	刑法各論(11) 強盗致死傷、強盗予備、昏酔強盗、強盗・強制性交等罪	61	
22	刑法各論(11) 強盗致死傷、強盗予備、昏酔強盗、強盗・強制性交等罪	62	
23	刑法各論(12) 詐欺罪の構成要件	63	
24	刑法各論(12) 詐欺罪の構成要件	64	
25	刑法各論(13) 詐欺罪に関する諸問題	65	
26	刑法各論(13) 詐欺罪に関する諸問題	66	
27	刑法各論(14) 電子計算機使用詐欺、恐喝	67	
28	刑法各論(14) 電子計算機使用詐欺、恐喝	68	
29	刑法各論(15) 横領、業務上横領、遺失物等横領	69	
30	刑法各論(15) 横領、業務上横領、遺失物等横領	70	
31	刑法各論(16) 横領罪に関する諸問題、背任	71	
32	刑法各論(16) 横領罪に関する諸問題、背任	72	
33	刑法各論(17) 盗品等罪、毀棄・隠匿の罪	73	
34	刑法各論(17) 盗品等罪、毀棄・隠匿の罪	74	
35	刑法各論(18) 騒乱罪・多衆不解散罪、現住建造物放火罪	75	
36	刑法各論(18) 騒乱罪・多衆不解散罪、現住建造物放火罪	76	
37	刑法各論(19) 非現住建造物等放火罪、延焼罪、往来妨害罪	77	
38	刑法各論(19) 非現住建造物等放火罪、延焼罪、往来妨害罪	78	
39	刑法各論(20) 通貨偽造・文書偽造(1)	79	
40	刑法各論(20) 通貨偽造・文書偽造(1)	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 ・ 毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。 ・ 諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	試験対策講座6 刑法 第3版	出版社	弘文堂
著者名	伊藤真		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	中央大学演習②	必修・選択	必須 / 遠隔授業(ライブ配信)
対象クラス	法学部併修学科2年	開講時期	通年
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。公務員採用試験、法科大学院入学試験等の各種試験に必要な最低限の知識、企業における法務セクション等で要求される法律の諸知識を獲得すること、また社会人として今後遭遇するであろう民法の法律問題につき相当な知識を身につけることが到達目標である。民法は物権と共に担保物権、債権総論や親族相続法の理解を深め、関連する特別法の解釈論等についても学ぶ。また刑法各論の理解を深め法律論文の習得を目指す。上記目標に沿って、物権・債権総論・親族相続・刑法各論のレポートの作成方法を学び実際に法律論文等に対応できるように演習を通じて表現する。出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。

2. 授業計画 (1時限 45分 × 32回 = 1440分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	民法2(物権)(1)	41	
2	民法3(債権総論)(2)	42	
3	民法5(親族・相続)(3)	43	
4	刑法各論(4)	44	
5	民法2(物権)(1)	45	
6	民法3(債権総論)(2)	46	
7	民法5(親族・相続)(3)	47	
8	刑法各論(4)	48	
9	民法2(物権)(1)	49	
10	民法3(債権総論)(2)	50	
11	民法5(親族・相続)(3)	51	
12	刑法各論(4)	52	
13	民法2(物権)(1)	53	
14	民法3(債権総論)(2)	54	
15	民法5(親族・相続)(3)	55	
16	刑法各論(4)	56	
17	民法2(物権)(1)	57	
18	民法3(債権総論)(2)	58	
19	民法5(親族・相続)(3)	59	
20	刑法各論(4)	60	
21	民法2(物権)(1)	61	
22	民法3(債権総論)(2)	62	
23	民法5(親族・相続)(3)	63	
24	刑法各論(4)	64	
25	民法2(物権)(1)	65	
26	民法3(債権総論)(2)	66	
27	民法5(親族・相続)(3)	67	
28	刑法各論(4)	68	
29	民法2(物権)(1)	69	
30	民法3(債権総論)(2)	70	
31	民法5(親族・相続)(3)	71	
32	刑法各論(4)	72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 ・ 毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。 ・ 諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	中央大学オンライン授業レジュメ	出版社	
著者名			

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	行政法	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科2年	開講時期	通年
教員名	吉井英二	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

本科目は動画配信による遠隔授業形式にて実施する。
 行政法のしくみや考え方の基礎について理解ができること。
 行政法の十分な理解のためには「憲法」および「民法総則」の理解が必要である。現実の社会における諸問題と行政法にはどのような関係があるか、具体的事例(判例の事案や新聞記事等)を考えながら、学習する。
 出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。

2. 授業計画

(1時限

45分

×

60回

=

2700分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	テーマ1 行政法の基礎	41	確認演習
2	テーマ1 行政法の基礎	42	確認演習
3	テーマ2 行政法上の法律関係	43	テーマ18 国家賠償法1条
4	テーマ2 行政法上の法律関係	44	テーマ18 国家賠償法1条
5	テーマ3 行政上の基準(行政立法・行政計画)	45	テーマ19 国家賠償法2条
6	テーマ3 行政上の基準(行政立法・行政計画)	46	テーマ19 国家賠償法2条
7	確認演習	47	テーマ20 損失補填
8	確認演習	48	テーマ20 損失補填
9	テーマ4 行政行為の概念と種類	49	確認演習
10	テーマ4 行政行為の概念と種類	50	確認演習
11	テーマ5 行政行為の効力	51	テーマ21 国の行政組織と法
12	テーマ5 行政行為の効力	52	テーマ21 国の行政組織と法
13	テーマ6 行政行為の瑕疵	53	テーマ22 地方公共団体の組織と事務
14	テーマ6 行政行為の瑕疵	54	テーマ22 地方公共団体の組織と事務
15	テーマ7 行政行為の効力の発生と消滅	55	テーマ23 地方公共団体の自治立法と住民
16	テーマ7 行政行為の効力の発生と消滅	56	テーマ23 地方公共団体の自治立法と住民
17	テーマ8 行政行為の附款	57	テーマ24 公務員法・公物法
18	テーマ8 行政行為の附款	58	テーマ24 公務員法・公物法
19	テーマ9 行政裁量	59	確認演習
20	テーマ9 行政裁量	60	確認演習
21	確認演習	61	
22	確認演習	62	
23	テーマ10 実効性確保の手段	63	
24	テーマ10 実効性確保の手段	64	
25	テーマ11 行政手続法	65	
26	テーマ11 行政手続法	66	
27	テーマ12 行政指導・行政契約	67	
28	テーマ12 行政指導・行政契約	68	
29	テーマ13 行政情報の収集と管理	69	
30	テーマ13 行政情報の収集と管理	70	
31	確認演習	71	
32	確認演習	72	
33	テーマ14 行政事件訴訟の類型	73	
34	テーマ14 行政事件訴訟の類型	74	
35	テーマ15 取消訴訟の訴訟要件	75	
36	テーマ15 取消訴訟の訴訟要件	76	
37	テーマ16 取消訴訟の審理経過と判決	77	
38	テーマ16 取消訴訟の審理経過と判決	78	
39	テーマ17 行政不服申立て	79	
40	テーマ17 行政不服申立て	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> 毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。 諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員試験 新スーパー過去問ゼミ5 行政法	出版社	実務教育出版
著者名	実務教育出版 編集部		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	英語C	必修・選択	必須 / 遠隔授業(ライブ配信)
対象クラス	法学部併修学科	開講時期	前期
教員名	スティーブソン・アロン	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。 基礎事項の確認を通し世界史の流れを大まかに掴み、現在の西欧世界に対する理解を深めることを目的とする。人物に関するエピソードや雑学をふんだんに盛り込んだ講義により歴史学に対する抵抗感を払拭し、国際社会の常識を身に付けることを促す。講義はプリントを中心とした座学、歴史(西洋史)Ⅱでは演習を中心に行う。 事前学習－授業時間同様の時間を使い、学習ユニットの表現、語句について下調べをすること。 事後学習－授業時間同様の時間を使い、学習ユニットの音読練習、ほぼ毎回行う小テストを含め次回への課題に向け取り組むこと。 出席する上での注意点－積極的に発言、参加すること。辞書必携。 出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。</p>
--

2. 授業計画 (1時限 45分 × 30回 = 1350分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	オリエンテーション	41	
2	Life in a day.(Grammar)	42	
3	Life in a day(Reading)	43	
4	Life in a day(Summary)	44	
5	Don't give up ! (Grammar)	45	
6	Don't give up ! (Reading)	46	
7	Don't give up ! (Summary)	47	
8	Why we buy(Grammar)	48	
9	Why we buy(Reading)	49	
10	Why we buy(Summary)	50	
11	Green living(Grammar)	51	
12	Green living(Reading)	52	
13	Green living(Summary)	53	
14	Food journeys(Grammar)	54	
15	Food journeys(Reading)	55	
16	Food journeys(Summary)	56	
17	Future living(Grammar)	57	
18	Future living(Reading)	58	
19	Future living(Summary)	59	
20	Exploration(Grammar)	60	
21	Exploration(Reading)	61	
22	Exploration(Summary)	62	
23	Music with a message(Grammar)	63	
24	Music with a message(Reading)	64	
25	Music with a message(Summary)	65	
26	Animal behavior(Grammar)	66	
27	Animal behavior(Reading)	67	
28	Animal behavior(Summary)	68	
29	The power of images(Grammar)(Reading)	69	
30	The power of images(Summary)	70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> 毎時出される課題の提出により動画視聴を確認し、これをもって出欠管理とする。この課題の成績は最終評価の50%を占めるものであり、真剣に取り組むことが強く推奨される。 諸連絡は各担任よりTeams若しくはクラスLINEによりなされる
授業貢献度	20%		
授業内のレポート・課題等	50%		
中間試験			
期末試験	20%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	PATHWAYS second edition 1 Reading, Writing, and Critical Thinking		
著者名	Mari Vargo / Laurie Blass	出版社	National Geographic Learning

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	数的推理	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科2年	開講時期	通年
教員名	秋丸 進也	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。
 数的推理の全範囲を指導する。2年次は公務員試験の高卒レベルの内容を指導し、より難易度の高い翌年の大卒レベルの指導へとつなげる。
 授業では、基本問題の解き方を中心に解説を行う。1テーマ2～3時間で指導を行う。テキストと必要に応じ自作のプリントを使用する。

出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。

2. 授業計画

(1時限

45分

×

62回

=

2790分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	第1章 数と式の計算 ①数の計算	41	⑮順列
2	①数の計算	42	⑮順列
3	②約数・倍数	43	⑯組合せ
4	②約数・倍数	44	⑯組合せ
5	③覆面算・方陣算	45	⑰確率
6	③覆面算・方陣算	46	⑰確率
7	④記数法・整数問題	47	問題演習
8	④記数法・整数問題	48	問題演習
9	⑤数列	49	第4章 図形 ⑱三角形の性質
10	⑤数列	50	⑱三角形の性質
11	問題演習	51	⑱三角形の性質
12	問題演習	52	⑲多角形
13	第2章 方程式・不等式の応用 ⑥一次方程式・一次不等式	53	⑲多角形
14	⑥一次方程式・一次不等式	54	⑲多角形
15	⑥一次方程式・一次不等式	55	⑳円と扇形
16	⑦二次関数・二次方程式	56	⑳円と扇形
17	⑦二次関数・二次方程式	57	⑳円と扇形
18	⑦二次関数・二次方程式	58	㉑立体図形・最短距離
19	⑧一次方程式の整数解・剰余算	59	㉑立体図形・最短距離
20	⑧一次方程式の整数解・剰余算	60	㉑立体図形・最短距離
21	⑧一次方程式の整数解・剰余算	61	問題演習
22	⑨集合の要素の個数	62	問題演習
23	⑨集合の要素の個数	63	
24	⑨集合の要素の個数	64	
25	⑩濃度・割合・比	65	
26	⑩濃度・割合・比	66	
27	⑩濃度・割合・比	67	
28	⑪速さ	68	
29	⑪速さ	69	
30	⑪速さ	70	
31	⑫時計算・年齢算	71	
32	⑫時計算・年齢算	72	
33	⑫時計算・年齢算	73	
34	⑬仕事算・ニュートン算	74	
35	⑬仕事算・ニュートン算	75	
36	⑬仕事算・ニュートン算	76	
37	問題演習	77	
38	問題演習	78	
39	第3章 場合の数・確率 ⑭場合の数	79	
40	⑭場合の数	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月、2月に行う評定試験の成績が評価のメインとなる ・ 授業内で行う問題演習の得点、出席も評価に加味する。 ・ 出席は毎時間のteamsへの投稿で確認する。 ・ オンラインで質問を受け付ける時間を設け対応する。
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	10%		
中間試験	40%		
期末試験	40%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	新・初級スーパー過去問ゼミ 数的推理、出たDATA問 過去問精選問題集基礎編①一般知能	出版社	実務教育出版、東京アカデミー
著者名			

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	判断推理	必修・選択	必須 / 遠隔授業(動画配信)
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科2年	開講時期	通年
教員名	秋丸 進也	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

本科目はライブ配信による遠隔授業形式にて実施する。
判断推理の全範囲を指導する。2年次は公務員試験の高卒レベルの内容を指導し、より難易度の高い翌年の大卒レベルの指導へとつなげる。授業では、基本問題の解き方を中心に解説を行う。1テーマ2～4時間で指導を行う。テキストと必要に応じ自作のプリントを使用する。

出欠確認/課題配布&提出/質問受付等は全て授業管理システム(MS Teams)を通じて行うものとする。

2. 授業計画

(1時限 45分 × 70回 = 3150分 4単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	第1章 暗号・集合・命題 ①暗号の解読	41	⑮点の移動と軌跡
2	①暗号の解読	42	⑮点の移動と軌跡
3	②集合と要素の数	43	⑮点の移動と軌跡
4	②集合と要素の数	44	⑮点の移動と軌跡
5	②集合と要素の数	45	⑯図形のつながり
6	②集合と要素の数	46	⑯図形のつながり
7	③命題の真偽	47	第6章 空間図形 ⑰立体の組み立て
8	③命題の真偽	48	⑰立体の組み立て
9	問題演習	49	⑱展開図とその応用
10	問題演習	50	⑱展開図とその応用
11	第2章 文章で表された条件 ④対応関係	51	⑱展開図とその応用
12	④対応関係	52	⑱展開図とその応用
13	⑤順序関係	53	⑲投影図とその応用
14	⑤順序関係	54	⑲投影図とその応用
15	⑥試合の勝ち負け	55	⑲投影図とその応用
16	⑥試合の勝ち負け	56	⑲投影図とその応用
17	⑦発言の真偽	57	⑳立体の回転と切断
18	⑦発言の真偽	58	⑳立体の回転と切断
19	⑦発言の真偽	59	⑳立体の回転と切断
20	⑦発言の真偽	60	⑳立体の回転と切断
21	問題演習	61	問題演習
22	問題演習	62	問題演習
23	第3章 数量で表された条件 ⑧操作の方法	63	
24	⑧操作の方法	64	
25	⑨数量の関係	65	
26	⑨数量の関係	66	
27	⑩経路と距離	67	
28	⑩経路と距離	68	
29	問題演習	69	
30	問題演習	70	
31	第4章 方位と位置 ⑪方位と方角	71	
32	⑪方位と方角	72	
33	⑫相互の位置関係	73	
34	⑫相互の位置関係	74	
35	問題演習	75	
36	問題演習	76	
37	第5章 平面図形 ⑬図形の切断と構成	77	
38	⑬図形の切断と構成	78	
39	⑭折り紙と模様	79	
40	⑭折り紙と模様	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 ・ 9月、2月に行う評定試験の成績が評価のメインとなる ・ 授業内で行う問題演習の得点、出席も評価に加味する。 ・ 出席は毎時間のteamsへの投稿で確認する。 ・ オンラインで質問を受け付ける時間を設け対応する。
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	10%		
中間試験	40%		
期末試験	40%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	新・初級スーパー過去問ゼミ 判断推理、出たDATA問 過去問精選問題集基礎編①一般知能	出版社	実務教育出版、東京アカデミー
著者名			

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	国際政治史Ⅱ	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科	開講時期	後期
教員名	夏野 龍	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

国際政治史Ⅰで得た知見をもとに、国際政治理論や国際法の基礎を学び、国際政治と表裏一体をなす国際経済史にも踏み込みながら国際政治の諸現象を学ぶ。国家間の関係性を構造主義的見地から捉え直し、特に近年の国際紛争の要因を理解することに重きを置く。全体の時間数が限られるので、学生自身の事前学習や調べこみを基礎とし、講義では新たな視点や知識を持たせることを目指す。

2. 授業計画 (1時限 45分 × 30回 = 1350分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	イントロダクション	41	
2	国際関係理論1(リアリズム)	42	
3	国際関係理論2(リアリズム)	43	
4	国際関係理論3(構造主義)	44	
5	国際関係理論4(その他の理論)	45	
6	国際法概論1	46	
7	国際法概論2	47	
8	国際法と諸問題1(軍縮と国際法)	48	
9	国際法と諸問題2(環境問題と国際法)	49	
10	国際経済史1(国際通貨体制)	50	
11	国際経済史2(自由貿易体制)	51	
12	国際経済史3(貿易摩擦・経済紛争)	52	
13	国際経済史4(南北問題)	53	
14	国際経済史5(ODA)	54	
15	国際経済史6(人間の安全保障)	55	
16	国際紛争1(中世)	56	
17	国際紛争2(近代)	57	
18	国際紛争3(第1次世界大戦)	58	
19	国際紛争4(戦間期)	59	
20	国際紛争5(第2次世界大戦)	60	
21	国際紛争6(冷戦期)	61	
22	国際紛争7(冷戦終結後)	62	
23	国際紛争8(近年の国際紛争①)	63	
24	国際紛争9(近年の国際紛争②)	64	
25	国際紛争10(近年の国際紛争③)	65	
26	国際紛争11(近年の国際紛争④)	66	
27	国際紛争12(近年の国際紛争⑤)	67	
28	問題演習	68	
29	問題演習	69	
30	問題演習	70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験	70%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	オリジナルプリントを配布。参考文献としてポール・ケネディ著「大国の興亡」(上下巻)。		
著者名		出版社	

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	人文科学B(日本史)	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科	開講時期	後期
教員名	夏野 龍	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

日本史を政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討し、世界の中の日本という国際環境ないし地理的視点から文化の多様性・複合性と現代社会の特質を理解し、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。
授業は講義を中心とし、史料から具体的歴史像を描き出すことを通じ、歴史を「覚える」から「考える」学問だという認識変革をもたらすことを目的とする。

2. 授業計画 (1時限 45分 × 30回 = 1350分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	原始時代	41	
2	聖徳太子の政治	42	
3	大化の改新	43	
4	律令国家の成立	44	
5	武士の台頭と摂関政治	45	
6	鎌倉時代	46	
7	南北朝の動乱	47	
8	室町幕府と守護大名	48	
9	応仁の乱	49	
10	中世の文化	50	
11	戦国時代	51	
12	都市の発達と経済	52	
13	幕藩体制	53	
14	文治政治	54	
15	江戸の三大改革	55	
16	幕末動乱	56	
17	大政奉還と明治維新	57	
18	文明開化・殖産興業	58	
19	自由民権運動	59	
20	大日本帝国憲法と帝国議会	60	
21	日清・日露戦争	61	
22	資本主義の発達	62	
23	第一次世界大戦	63	
24	世界恐慌・昭和恐慌	64	
25	日中戦争と太平洋戦争	65	
26	戦時下の日本	66	
27	GHQ占領下の日本	67	
28	民主主義への道	68	
29	経済大国	69	
30	現代の日本	70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等	20%		
中間試験			
期末試験	70%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	オリジナルプリント	出版社	
著者名			

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	英語D	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科	開講時期	前期
教員名	スティーブソン・アロン	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<p>社会人として活躍する際に想定される場面での受信、発信する力の基礎力を培うことを目的とする。「読んだ内容、聞いた内容=受信」したものを自身で「書く、話す=発信」できる力の向上を目指す。文法、語句を英語的知識にとどめておくだけでなく使える道具として発信力に取り込み、社会人として活躍する際に想定される日常生活での場面、社会活動での場面における英語によるコミュニケーション力の向上をはかる。同時に異文化理解と異文化に対する姿勢づくりも併せて行う。</p>

2. 授業計画

(1時限

45分

×

30回

=

1350分

2単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	オリエンテーション	41	
2	Happiness(Vocabulary)	42	
3	Happiness(Listening)	43	
4	Happiness (Writing)	44	
5	Inventive solutions(Vocabulary,Listenin)	45	
6	Inventive solutions(Writing)	46	
7	Connected lives(Vocabulary)	47	
8	Connected lives(Listening)	48	
9	Connected lives(Writing)	49	
10	Saving our seas(Vocabulary)	50	
11	Saving our seas(Listening)	51	
12	Saving our seas(Writing)	52	
13	Memory and learning(Vocabulary)	53	
14	Memory and learning(Listening)	54	
15	Memory and learning(Writing)	55	
16	Animals and medicine(Vocabulary)	56	
17	Animals and medicine(Listening)	57	
18	Animals and medicine(Writing)	58	
19	Nature's fury(Vocabulary)	59	
20	Nature's fury(Listening)	60	
21	Nature's fury(Writing)	61	
22	Building wonders(Vocabulary)	62	
23	Building wonders(Listening)	63	
24	Building wonders(Writing)	64	
25	Form and function(Vocabulary)	65	
26	Form and function(Listening)	66	
27	Form and function(Writing)	67	
28	Smart advice(Vocabulary)	68	
29	Smart advice(Listening)	69	
30	Smart advice(Writing)	70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄 事前学習－授業時間同様の時間を使い、学習ユニットの表現、語句について下調べをすること。 事後学習－授業時間同様の時間を使い、学習ユニットの音読練習、ほぼ毎回行う小テストを含め次回への課題に向け取り組むこと。 出席する上での注意点－積極的に発言、参加すること。辞書必携。
授業貢献度	20%		
授業内のレポート・課題等	50%		
中間試験			
期末試験	20%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	PATHWAYS second edition 2 Reading,Writing,and Critical Thinking		
著者名	Mari Vargo / Laurie Blass	出版社	National Geographic Learning

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	情報処理Ⅱ(Excel実習)	必修・選択	必修
対象クラス	NLEED1年	開講時期	後期
教員名	鹿熊真弓	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを使用し、タッチタイピングを習得する。 ・テキストを使用し、Excelの基本操作を習得する。 ・練習プリントを使用し、応用力を身に付ける。 ・検定問題集を使用し、3級合格を目指す。
--

2. 授業計画 (1時限 45分 × 40回 = 1800分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	Excelの基本操作	41	
2	データの編集	42	
3	データの編集	43	
4	データの編集	44	
5	表の編集	45	
6	表の編集	46	
7	表の編集	47	
8	表の編集	48	
9	ブックの印刷	49	
10	ドリルプリント	50	
11	ドリルプリント	51	
12	グラフと図形の作成	52	
13	グラフと図形の作成	53	
14	グラフと図形の作成	54	
15	グラフと図形の作成	55	
16	ブックの利用と管理	56	
17	関数	57	
18	関数	58	
19	関数	59	
20	関数	60	
21	ドリルプリント	61	
22	ドリルプリント	62	
23	データベース機能	63	
24	データベース機能	64	
25	問題集練習問題1	65	
26	問題集練習問題1	66	
27	問題集練習問題2、3	67	
28	問題集練習問題2、3	68	
29	問題集模擬問題1	69	
30	問題集模擬問題1	70	
31	問題集模擬問題2、3	71	
32	問題集模擬問題2、3	72	
33	問題集模擬問題4、5	73	
34	問題集模擬問題4、5	74	
35	問題集模擬問題6、7	75	
36	問題集模擬問題6、7	76	
37	サンプル問題	77	
38	サンプル問題	78	
39	検定	79	
40	検定	80	

3. 評価方法

出席	} N/A	備考欄	科目出席率75%未満または、10点満点中 A: 8~10点 ※検定不合格者はC評価 B: 5~7点 ※授業態度、課題、提出物、模擬問題、 C: 3~4点 サンプル問題、検定結果を総合評価 追試: 0~2点
授業貢献度			
授業内のレポート・課題等			
中間試験			
期末試験			

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	Word2016クイックマスター<基礎編>、Word文書処理技能認定試験3級問題集2016対応版		
著者名	サーティファイ ソフトウェア活用能力認定委員会	出版社	株式会社サーティファイ

5. 実務教員の経歴

--

2020年6月8日

科目名	自然科学4(物理・化学)	必修・選択	必修
対象クラス	法律公務員学科、法学部併修学科	開講時期	前期
教員名	夏野龍	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

頻出ポイントに絞りテキストの確認・補足→演習問題で覚えていない個所を絞り出し、知識の穴を埋めていく。
基礎知識を生かし、使用テキスト以外の問題にも挑戦し得点できる力を養う。
最終的に、各評価試験で7割の得点を目標とする。

2. 授業計画 (1時限 45分 × 36回 = 1620分 2単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	物理Lesson1 力のつり合い	41	
2	物理Lesson1 力のつり合い	42	
3	物理Lesson2 物体の運動	43	
4	物理Lesson2 物体の運動	44	
5	物理Lesson3 エネルギーと運動量	45	
6	物理Lesson3 エネルギーと運動量	46	
7	物理Lesson4 電流と磁界	47	
8	物理Lesson4 電流と磁界	48	
9	物理Lesson5 波動	49	
10	物理Lesson5 波動	50	
11	物理Lesson6 熱・原子ほか	51	
12	物理Lesson6 熱・原子ほか	52	
13	化学Lesson1 物質の構成	53	
14	化学Lesson1 物質の構成	54	
15	化学Lesson2 元素の周期表	55	
16	化学Lesson2 元素の周期表	56	
17	化学Lesson3 化学結合	57	
18	化学Lesson3 化学結合	58	
19	化学Lesson4 化学反応と物質量	59	
20	化学Lesson4 化学反応と物質量	60	
21	化学Lesson5 物質の状態	61	
22	化学Lesson5 物質の状態	62	
23	化学Lesson6 酸と塩基		
24	化学Lesson6 酸と塩基		
25	化学Lesson7 酸化と還元		
26	化学Lesson7 酸化と還元		
27	化学Lesson8 無機物質と有機物質		
28	化学Lesson8 無機物質と有機物質		
29	化学Lesson9 期待の製法と性質		
30	化学Lesson9 期待の製法と性質		
31	化学Lesson10 人間生活と化学		
32	化学Lesson10 人間生活と化学		
33	演習1		
34	演習2		
35	演習3		
36	演習4		
37			
38			
39			
40			

3. 評価方法

出席	20%	} 100%	備考欄
授業貢献度	20%		
授業内のレポート・課題等			
中間試験	30%		
期末試験	30%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員Vテキスト社会科学	出版社	TAC株式会社出版事業部
著者名	TAC株式会社		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	体育実習	必修・選択	選択
対象クラス	法学併修学科1年	開講時期	前期
教員名	松本 靖	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・全ての生活の基礎となる体力・健康維持の重要性を理解させ、その向上を図る。 ・知的学習への取り組みにおける粘り強さ、乗り越える力を養う。 ・生涯に渡ってスポーツに親しむ能力を養う。
--

2. 授業計画 (1時限 45分 × 15回 = 675分 1単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	授業ガイダンス、ストレッチ運動	41	
2	体力テスト:新体力テスト抜粋+垂直跳び等	42	
3	体力テスト:新体力テスト抜粋+垂直跳び等	43	
4	有酸素運動トレーニング・ダンス演習	44	
5	筋力トレーニング・柔軟性トレーニング	45	
6	屋内球技演習:バドミントン、バスケットボール他	46	
7	屋内球技演習:バドミントン、バスケットボール他	47	
8	屋外球技演習:サッカー、タッチラグビー他	48	
9	屋外球技演習:サッカー、タッチラグビー他	49	
10	ゴルフ実習	50	
11	ゴルフ実習	51	
12	ゴルフ実習	52	
13	ゴルフ実習	53	
14	ゴルフ実習	54	
15	ゴルフ実習	55	
16		56	
17		57	
18		58	
19		59	
20		60	
21		61	
22		62	
23		63	
24		64	
25		65	
26		66	
27		67	
28		68	
29		69	
30		70	
31		71	
32		72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

3. 評価方法

出席と体力測定により 100% A:出席率90%以上、体力測定上位20%の者 B:上記以外で出席率80%以上、体力測定上位50%以上 C:上記以外で出席率75%以上の者 D:出席率75%未満の者(追試)	100%	備考欄
---	------	-----

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	改訂版 健康とスポーツの生理科学	出版社	ふくろう出版
著者名	江橋博		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	日本法制史	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科2年	開講時期	通年
教員名	夏野龍	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

授業はテキスト『日本法制史』を中心に行う。内容は基礎事項・用語の確認を中心に講義。現代における事柄と絡めた令和を盛り込み興味を持たせる(法令の新旧の比較、類似点を挙げる)

2. 授業計画 (1時限 45分 × 60回 = 2700分 4単位)

時間	指導単元	時間	指導単元
1	イントロダクション	41	朝廷刑法
2	律令時代	42	在地の刑法
3	乙巳の変	43	取引法総説
4	大化改新	44	取引法売買
5	律令体制の整備	45	取引法貸借
6	律令法総説	46	取引法担保
7	家族法	47	婚姻
8	律令編纂史	48	相続
9	養老律令の内容	49	訴訟の種類
10	日本と唐と律令の差異	50	所務沙汰
11	格式	51	分国法
12	律令の注釈書	52	江戸時代の法
13	官職制度	53	江戸幕府行政機構
14	官人制	54	刑罰の種類
15	刑罰の種類	55	吟味筋
16	儒教と刑法	56	出入筋
17	律令における既定の明文化	57	憲法
18	位階と刑法	58	民法
19	年齢と刑罰	59	司法制度
20	故意・過失	60	問題演習
21	併合罪	61	
22	自首	62	
23	取引法の売買	63	
24	取引法の貸借	64	
25	取引法の担保	65	
26	五等親制	66	
27	親子	67	
28	婚姻	68	
29	離婚	69	
30	相続	70	
31	裁判手続の種類	71	
32	裁判機関・管轄・権限	72	
33	裁判手続	73	
34	分権社会	74	
35	荘園	75	
36	武家政権	76	
37	分権社会と法	77	
38	朝廷法	78	
39	鎌倉幕府法	79	
40	室町幕府法	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	日本法制史	出版社	中央大学通信教育部
著者名	本間 修平		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	行政学	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科2年	開講時期	通年
教員名	吉井英二	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

各単元で頻出ポイントを重点的に行う。用語などが難しくイメージしづらいので具体的な例え話を盛り込み、要所所で以前に学んだポイントを再度例示しながら点だった知識を線にしていく。章順を入れ替えて行政学の歴史から始めて、用語や背景を掴んでから各論へと結びつける。

2. 授業計画

(1時限

45分

×

60回

=

2700分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	テーマ18 行政の歴史と行政国家	41	テーマ14 行政統制
2	テーマ18 行政の歴史と行政国家	42	テーマ14 行政統制
3	テーマ19 行政学の歴史	43	テーマ14 行政統制
4	テーマ19 行政学の歴史	44	確認テスト
5	テーマ20 行政学の理論家	45	テーマ15 わが国の地方自治の現状
6	テーマ20 行政学の理論家	46	テーマ15 わが国の地方自治の現状
7	テーマ20 行政学の理論家	47	テーマ15 わが国の地方自治の現状
8	テーマ21 組織理論	48	確認テスト
9	テーマ21 組織理論	49	テーマ16 わが国の地方自治の歴史
10	確認テスト	50	テーマ16 わが国の地方自治の歴史
11	テーマ1 官僚制論	51	テーマ16 わが国の地方自治の歴史
12	テーマ1 官僚制論	52	確認テスト
13	テーマ2 官僚制の実態	53	テーマ17 諸外国の地方自治
14	テーマ2 官僚制の実態	54	テーマ17 諸外国の地方自治
15	テーマ3 行政組織の構成原理	55	テーマ17 諸外国の地方自治
16	テーマ3 行政組織の構成原理	56	確認テスト
17	テーマ4 わが国の行政組織	57	総まとめ
18	テーマ4 わが国の行政組織	58	総まとめ
19	テーマ5 行政委員と審議会	59	総まとめ
20	テーマ5 行政委員と審議会	60	総まとめ
21	確認テスト	61	
22	テーマ6 公務員制度	62	
23	テーマ6 公務員制度	63	
24	テーマ7 予算	64	
25	テーマ7 予算	65	
26	テーマ8 評価と能率	66	
27	テーマ8 評価と能率	67	
28	テーマ10 行政改革	68	
29	テーマ10 行政改革	69	
30	確認テスト	70	
31	テーマ11 行政過程	71	
32	テーマ11 行政過程	72	
33	テーマ11 行政過程	73	
34	テーマ12 行政活動	74	
35	テーマ12 行政活動	75	
36	テーマ12 行政活動	76	
37	確認テスト	77	
38	テーマ13 行政責任	78	
39	テーマ13 行政責任	79	
40	テーマ13 行政責任	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	新スーパー過去問ゼミ5 行政学	出版社	実務教育出版
著者名			

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	労働法 個別的労働法	必修・選択	必修
対象クラス	法学部併修学科・法律公務員学科2年	開講時期	通年
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・労使の個別的な労働関係(雇用関係)が契約関係(労働契約上の権利・義務関係)であることを理解し、雇用関係に関する基本的な法的知識を習得する。 ・個別的な契約関係において生じる紛争を法的に整理して、その争点を理解することができる。 ・個別的労働関係(雇用契約)における法的紛争を解決するための法的な仕組み(法制度)と、紛争に適用される法的ルール(法律、判例等)の内容を理解している。
--

2. 授業計画

(1時限

45分

×

60回

=

2700分

4単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	テーマ1 労働契約	41	演習
2	テーマ1 労働契約	42	演習
3	テーマ1 労働契約	43	テーマ7 就業規則・懲戒
4	テーマ1 労働契約	44	テーマ7 就業規則・懲戒
5	演習	45	テーマ7 就業規則・懲戒
6	演習	46	テーマ7 就業規則・懲戒
7	演習	47	演習
8	テーマ2 解雇	48	演習
9	テーマ2 解雇	49	演習
10	テーマ2 解雇	50	テーマ8 労働基準法の総合問題
11	テーマ2 解雇	51	テーマ8 労働基準法の総合問題
12	演習	52	テーマ8 労働基準法の総合問題
13	演習	53	テーマ8 労働基準法の総合問題
14	テーマ3 賃金	54	演習
15	テーマ3 賃金	55	演習
16	テーマ3 賃金	56	演習
17	テーマ3 賃金	57	総まとめ
18	演習	58	総まとめ
19	演習	59	総まとめ
20	演習	60	総まとめ
21	テーマ4 労働時間・休日・休憩	61	
22	テーマ4 労働時間・休日・休憩	62	
23	テーマ4 労働時間・休日・休憩	63	
24	テーマ4 労働時間・休日・休憩	64	
25	演習	65	
26	演習	66	
27	演習	67	
28	テーマ5 年次有給休暇	68	
29	テーマ5 年次有給休暇	69	
30	テーマ5 年次有給休暇	70	
31	テーマ5 年次有給休暇	71	
32	演習	72	
33	演習	73	
34	演習	74	
35	テーマ6 女性・年少者	75	
36	テーマ6 女性・年少者	76	
37	テーマ6 女性・年少者	77	
38	テーマ6 女性・年少者	78	
39	演習	79	
40	演習	80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	新スーパー過去問ゼミ5 労働法	出版社	実務教育出版
著者名			

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	刑法各論演習	必修・選択	必須
対象クラス	法学部併修学科2年	開講時期	後期
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

どのような行為が犯罪となり、いかなる刑罰が科されるのかについて、各条文の内容について学修する。各犯罪規程のねらい、成立要件、特徴、適用範囲などについて、理解が十分に及ぶことを目標とする。あわせて、体系的思考を身につけ、理論的につじつまの合う考え方をしめすことができるようになることを目標とする。

2. 授業計画

(1時限

45分

×

32回

=

1440分

2単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	刑法各論(1) 殺人、傷害	41	
2	刑法各論(2) 傷害(2)、過失傷害、墮胎	42	
3	刑法各論(3) 遺棄・逮捕監禁	43	
4	刑法各論(4) 脅迫・略取誘拐	44	
5	刑法各論(5) 強制わいせつ、業務妨害、信用毀損、秘密漏示罪	45	
6	刑法各論(6) 住居侵入・名誉棄損罪	46	
7	刑法各論(7) 財産罪、窃盗罪	47	
8	刑法各論(8) 窃盗、不動産侵奪、親族間特例	48	
9	刑法各論(9) 強盗の構成要件	49	
10	刑法各論(10) 強盗利得罪、事後強盗罪	50	
11	刑法各論(11) 強盗致死傷、強盗予備、昏酔強盗、強盗・強制性交等罪	51	
12	刑法各論(12) 詐欺罪の構成要件	52	
13	刑法各論(13) 詐欺罪に関する諸問題	53	
14	刑法各論(14) 電子計算機使用詐欺、恐喝	54	
15	刑法各論(15) 横領、業務上横領、遺失物等横領	55	
16	刑法各論(16) 横領罪に関する諸問題、背任	56	
17	刑法各論(17) 盗品等罪、毀棄・隠匿の罪	57	
18	刑法各論(18) 騒乱罪・多衆不解散罪、現住建造物放火罪	58	
19	刑法各論(19) 非現住建造物等放火罪、延焼罪、往来妨害罪	59	
20	刑法各論(20) 通貨偽造・文書偽造(1)	60	
21	刑法各論(21) 文書偽造(2)、文書偽造に関する諸問題(1)	61	
22	刑法各論(22) 文書偽造に関する諸問題(2)、有価証券偽造	62	
23	刑法各論(23) 公然わいせつ、重婚、賭博、富くじ、死体遺棄罪	63	
24	刑法各論(24) 内乱、外患、公務執行妨害罪	64	
25	刑法各論(25) 逃走、犯人蔵匿・隠避罪	65	
26	刑法各論(26) 証拠隠滅、親族間特例	66	
27	刑法各論(27) 偽証罪、虚偽告訴、職権乱用、単純収賄	67	
28	刑法各論(28) 恐喝と贈収賄、その他の賄賂罪の要件	68	
29	刑法各論(29) 総括1	69	
30	刑法各論(30) 総括2	70	
31	総まとめ	71	
32	総まとめ	72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	試験対策講座6 刑法 第3版	出版社	弘文堂
著者名	伊藤真		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	債権総論演習	必修・選択	必須
対象クラス	法学部併修学科2年	開講時期	後期
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

公務員採用試験、法科大学院入学試験等の各種試験に必要な最低限の知識、企業における法務セクション等で要求される民法総則の諸知識を獲得すること、また社会人として今後遭遇するであろう民法の法律問題につき相当な知識を身につけることが到達目標である。民法総則1条～174条と、成年後見法、消費者契約法や一般法人法など関連する特別法の解釈論等についても学ぶ。

上記目標に沿って、レポートの作成方法を学び実際に法律論文等に対応できるように演習を通じて表現する。

2. 授業計画

(1時限

45分

×

32回

=

1440分

2単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	民法1 債権(1) 債権総論、不特定物の特定	41	
2	民法2 債権(2) 債権の効力、債務不履行	42	
3	民法2 債権(2) 債権の効力、債務不履行	43	
4	民法3 債権(3) 債務不履行、損害賠償	44	
5	民法3 債権(3) 債務不履行、損害賠償	45	
6	民法4 債権(4) 損害賠償、受領遅滞	46	
7	民法4 債権(4) 損害賠償、受領遅滞	47	
8	民法5 債権(5) 債権者代位権	48	
9	民法5 債権(5) 債権者代位権	49	
10	民法6 債権(6) 詐害行為取消権の要件	50	
11	民法6 債権(6) 詐害行為取消権の要件	51	
12	民法7 債権(7) 詐害行為取消権の効果	52	
13	民法7 債権(7) 詐害行為取消権の効果	53	
14	民法8 債権(8) 可分・不可分債権、連帯債務	54	
15	民法8 債権(8) 可分・不可分債権、連帯債務	55	
16	民法9 債権(9) 連帯債務、不真正連帯債務	56	
17	民法9 債権(9) 連帯債務、不真正連帯債務	57	
18	民法10 債権(10) 保証債務、保証人の抗弁権	58	
19	民法10 債権(10) 保証債務、保証人の抗弁権	59	
20	民法11 債権(11) 保証人の求償権、その他の保証	60	
21	民法11 債権(11) 保証人の求償権、その他の保証	61	
22	民法12 債権(12) 債権譲渡総論、対抗要件	62	
23	民法13 債権(13) 対抗要件・抗弁の承継と切断	63	
24	民法13 債権(13) 対抗要件・抗弁の承継と切断	64	
25	民法14 債権(14) 債権譲渡にかかわる諸問題、債権譲渡類似の法律関係	65	
26	民法14 債権(14) 債権譲渡にかかわる諸問題、債権譲渡類似の法律関係	66	
27	民法15 債権(15) 弁済、債権の準占有者	67	
28	民法15 債権(15) 弁済、債権の準占有者	68	
29	民法16 債権(16) 弁済による代位、弁済提供の要件	69	
30	民法17 債権(17) 弁済提供の諸問題、代物弁済、相殺の要件	70	
31	民法18 債権(18) 相殺に関する諸問題	71	
32	総まとめ	72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員試験 新スーパー過去問ゼミ5 民法Ⅱ	出版社	実務教育出版
著者名	実務教育出版 編集部		

5. 実務教員の経歴

無

2020年6月8日

科目名	親族相続演習	必修・選択	必須
対象クラス	法学部併修学科2年	開講時期	後期
教員名	小林 貴子	実務授業の有無	無

1. 授業概要(重点目標/指導方法等)

親族法と相続法それぞれの制度がどのように構成されているのか、それらの制度をめぐってどのような問題が起こっているのかを把握することが第一の目的である。この分野は、明治民法施行後、立法による抜本的な改正が行われてこなかった部分も多いだけに、世界各国や日本国内の生活実態に合わない部分も多い。そのような問題には、条文を読んだだけでは対応できない。そこで、社会の実情に法制度のほうをどのように合わせていくのかという視点を獲得することも目的とされる。

2. 授業計画

(1時限

45分

×

32回

=

1440分

2単位

時間	指導単元	時間	指導単元
1	民法1 親族・相続(1) 親族総論、婚姻要件	41	
2	民法1 親族・相続(1) 親族総論、婚姻要件	42	
3	民法1 親族・相続(1) 親族総論、婚姻要件	43	
4	民法2 親族・相続(2) 婚姻の効果、婚姻の解消、その他内縁等	44	
5	民法2 親族・相続(2) 婚姻の効果、婚姻の解消、その他内縁等	45	
6	民法2 親族・相続(2) 婚姻の効果、婚姻の解消、その他内縁等	46	
7	民法3 親族・相続(3) 総論・実子・養子	47	
8	民法3 親族・相続(3) 総論・実子・養子	48	
9	民法3 親族・相続(3) 総論・実子・養子	49	
10	民法4 親族・相続(4) 特別養子、親権・後見	50	
11	民法4 親族・相続(4) 特別養子、親権・後見	51	
12	民法4 親族・相続(4) 特別養子、親権・後見	52	
13	民法5 親族・相続(5) 後見・保佐・補助・扶養	53	
14	民法5 親族・相続(5) 後見・保佐・補助・扶養	54	
15	民法5 親族・相続(5) 後見・保佐・補助・扶養	55	
16	民法6 親族・相続(6) 相続総論、欠格事由、廃除	56	
17	民法6 親族・相続(6) 相続総論、欠格事由、廃除	57	
18	民法6 親族・相続(6) 相続総論、欠格事由、廃除	58	
19	民法7 親族・相続(7) 相続分・遺産分割	59	
20	民法7 親族・相続(7) 相続分・遺産分割	60	
21	民法7 親族・相続(7) 相続分・遺産分割	61	
22	民法8 親族・相続(8) 相続の承認・放棄	62	
23	民法8 親族・相続(8) 相続の承認・放棄	63	
24	民法8 親族・相続(8) 相続の承認・放棄	64	
25	民法9 親族・相続(9) 遺言総論、遺言の方式	65	
26	民法9 親族・相続(9) 遺言総論、遺言の方式	66	
27	民法9 親族・相続(9) 遺言総論、遺言の方式	67	
28	民法10 親族・相続(10) 遺言の効力、執行、撤回、遺留分	68	
29	民法10 親族・相続(10) 遺言の効力、執行、撤回、遺留分	69	
30	民法10 親族・相続(10) 遺言の効力、執行、撤回、遺留分	70	
31	民法18 債権(18) 相殺に関する諸問題	71	
32	総まとめ	72	
33		73	
34		74	
35		75	
36		76	
37		77	
38		78	
39		79	
40		80	

3. 評価方法

出席	10%	} 100%	備考欄
授業貢献度	10%		
授業内のレポート・課題等	30%		
中間試験			
期末試験	50%		

4. テキスト/参考文献等(書名・著者名・出版社)

書名	公務員試験 新スーパー過去問ゼミ5 民法Ⅱ	出版社	実務教育出版
著者名	実務教育出版 編集部		

5. 実務教員の経歴

無